

東叡山寛永寺元三大師縁起

延宝七（1679年）に天海の弟子である胤海撰述。天海の三十七回忌にあたって『東叡山開山慈眼大師縁起』と共に、合わせて『両大師伝記』の名で版行。

さいつごころにや。大僧正天海へ。夢中むちゆうに示させ給ふは。信州とかくしやま戸隠山とかくしやまに侍る観音籤せんを我前わきまへにおき。信心堅固たうしゆにして棹取たうしゆせば。

衆人所願きつけうかふくに應じ。吉凶禍福きつけうかふくをしらしめんと示し給へば。すなはち戸隠ちくかんにいひつかはし。神前せんに有ける。五言四句せんもんの占文せんもんを。竹筒ちくかんにうつし。筒中とうちゆうにこめ經きんをよみ。密咒みつしゆをみて。棹動たうどうして。

口よりさし出たる籤せんを占うらなふに。行末なごころの事とも。掌たなごころを指さすがごとし。戸隠權現むかひと師せんとは。和光わくわうの利物りやくぶつ一躰むかし分身むかしと。昔むかしより云傳つとむへけるもむべなり。抑おさ此こゝ勸音籤せんは。我朝わがのみにもあらず。

異朝いしやうには其名なづかひを。大士籤だいしせんと云へり。されば佛祖統紀ぶつそとうき三十四卷さんじゅうしよくわんには。大士籤だいしせん。天竺百籤てんしよくせん。越圓通百三十籤えつゝのゑんづう。以決もつてきつ二吉凶にけうをけつす。其應そのおうちやう如二響相傳あひひびきあひひびき。是これ大士化身だいしけしん所述しよじゆつと云へり。師既しに觀

音大士けしんの化身けしんなれば宋地さうちの人師にんしの記文きぶんにも。をのづから合符がうふせり。

註 「高僧実伝 仏教各宗」 帝国文庫第 44 編に採録。

近代デジタルライブラリー (DOI

10.11501/992045) に画像あり。468-469 コマ目。